

Catalogue No.

20686-4

東洋佐々木ガラスの歩み

東洋ガラス株式会社

●明治11年(1878年)

創始者の島田孫市は、明治政府が国産ガラス産業の礎として設立した品川工作分局へ入局。英国人技師ジェームス・スビートより舶来吹き技法の指導を受け、他、当時秘伝の原料調合法も学び、基礎知識を培う。



●明治21年(1888年)

大阪の川崎村に島田硝子製造所を創業。舶来吹き技術を活かした食器やランプを生産し、その品質の高さから業績を伸ばす。

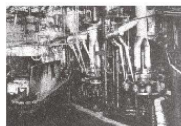


●明治42年(1909年)

大阪の海老江に最新技術を取り入れた新工場を操業。

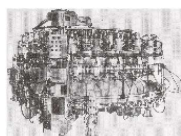
●昭和3年(1928年)

米国より最新鋭の全自動押型機を導入し、タンブラー生産を開始。



●昭和53年(1978年)

TBM-18マシンを導入。金型にガラスをほとんど押し付けずにタンブラーを成形でき、生地肌の美しいガラスの生産が可能になる。



佐々木硝子株式会社

●明治35年(1902年)

創始者の佐々木宗次郎は、東京の神田に佐々木宗次郎商店を創業し石油ランプの販売を開始。翌年にはハワイ、中国など海外へランプの輸出を開始。国内では販路を拡張し全国的な卸問屋に成長させる。



●昭和4年(1929年)

ガラス専用焼付け顔料を開発し、手描きの焼付け加工を開始。



●昭和15年(1940年)

日本初のスクリーン印刷による加工生産を開始。後に特許を取得し日本のプリントガラス印刷技術の礎となる。

●昭和32年(1957年)

日産10万個のタンブラー生産が可能なH-28マシンをアジアで初めて導入。安価で高品位な製品の大量供給が可能になる。



●昭和42年(1967年)

国産初の食器用口部強化ガラス「HS」ハードストロングの生産を開始。安全性と品揃えで市場を席巻し、現在もトップブランドであり続けている。



東洋佐々木ガラス株式会社

●平成14年(2002年)

「東洋ガラス株式会社ハウスウエア部門」と、「佐々木硝子株式会社」は統合。「東洋佐々木ガラス株式会社」となる。

千葉県八千代市に、最新のオートメーション設備とハンドメイド部門の両方を併せ持つ新工場が完成する。



●平成18年(2006年)

高品位ソーダ石灰ガラス「ファインクリア」を開発。ソーダ石灰ガラスの強さを維持しながら、ガラスの純度と透明度を向上し、シャープなクリアさを実現。以降、マシンメイド製品は総て「ファインクリア」製品として生産を行う。



●平成20年(2008年)

世界初の強化クリスタル「ファインクリスタル・イオンストロング」を開発し発売を開始する。「ファインクリスタル」に独自の強化加工技術「イオンストロング」を施し、強く美しく経済的なクリスタルガラスを世界に先駆けて実現する。国際特許出願済み。翌年、日本における特許を取得。



●平成26年(2014年)

当社が会員となっている一般社団法人東部硝子工業会が、経済産業大臣へ申請した「江戸硝子」が国の伝統的工芸品に指定され、当社も伝統的工芸品「江戸硝子」を冠したハンドメイド製品の製造販売を開始する。



●平成29年(2017年)

国産初の食器用強化ガラス「HS」ハードストロングが、昭和42年(1967年)の発売より50年を迎える。業務用強化ガラスの定番として、発売以来およそ8億個^(※)の「HS」製品を販売。「フィーノ スタック」が2017年度グッドデザイン賞「ベスト100」に選ばれ、「グッドデザイン金賞」を受賞。



※2017年時点